

## 自己評価報告書

平成23年 5月13日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20520383

研究課題名 (和文) キエフ・ルーシにおける文章語の成立と古教会スラブ語の影響

研究課題名 (英文) The formation of the literary language of Kievan Rus' and the influence of Old Church Slavonic .

研究代表者

佐藤 昭裕 (SATO AKIHIRO)

京都大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：50135498

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：中世ロシア文章語・古教会スラブ語・テキスト言語学・指示代名詞・語順・キエフ・ルーシ

## 1. 研究計画の概要

本研究は、キエフを中心とした11世紀～13世紀ロシアの文章語の成立について、その基層となった東スラブ語の本来の特徴と、それに対する南スラブ語、すなわちスラブ世界における最古の文章語としての古教会スラブ語の影響という、2つの観点から検討する。その際、従来の語彙を中心とした議論に対して、テキストの構造と結束的なテキストを作るための種々の言語形式の使用という点に対象を絞り、その分野における古教会スラブ語の影響を明らかにすることを目指す。具体的には、次の3つの点から議論を進める。

(1) 古ロシア年代記『過ぎし年月の物語』に見られるテキストのタイプの区別、すなわち「事実叙述」タイプのテキスト部分と「コメント」タイプのテキスト部分の区別という考え方が、古教会スラブ語テキスト、各種聖者伝テキストの分析にも有効であるかどうかを検証する。

(2) 古教会スラブ語、各種聖者伝における、テキストのタイプと語順の分布の相関を明らかにする。

(3) 古教会スラブ語、各種聖者伝における、テキストのタイプと指示代名詞の分布の違いを明らかにする。

その上で、12世紀ロシアの文章語としての『過ぎし年月の物語』の文体がスラブ文章語全体の中で、どのように位置づけられるのかを検討し、その書き言葉としての独自の文体が、ロシア(東スラブ)で独自に成立し発展したものなのか、他のスラブ文章語の影響を受けて成立したものなのかを明らかにする。

## 2. 研究の進捗状況

本研究の出発点となった古ロシア年代記『過ぎし年月の物語』の言語についての観察は、2つの国際学会で発表し、良い反応を得ている。うちひとつは、南スラブ系聖者伝についての分析も含んでいる。

この3年間、南スラブ系聖者伝「コンスタンティノス伝」「メトディオス伝」と古教会スラブ語福音書のテキストを材料に分析を進め、上記研究計画の概要に示した3つの点について、次のような結果を得た。

(1) テキストのタイプについて、古ロシア年代記『過ぎし年月の物語』に見られる「事実叙述」タイプと「コメントタイプ」の区別は、南スラブ系聖者伝の分析についても有効であることを確かめた。その際、南スラブ系聖者伝の事実叙述タイプのテキストでは、古ロシア年代記におけるような様式化された語りのスタイルは観察されなかった。一方、古教会スラブ語福音書では、コメントタイプのテキストは存在せず、その代わりに「説教」タイプのテキストを区別することが有効であることが分かった。

(2) テキストのタイプと語順の相関について、南スラブ系聖者伝においても、両者の相関関係の存在が確認された。ただし事実叙述タイプにおける語順は古ロシア年代記に比べより自由であること、すなわち古ロシア年代記の文体は、南スラブ系聖者伝の伝統をそのまま引き継ぐものではないことも分かった。

(3) テキストのタイプと指示代名詞の分布については、古教会スラブ語福音書の分析に力を注いだ。その結果、福音書では説教タイプのテキストと近称の指示代名詞、事実叙述タイプのテキストと遠称の指示代名詞の間に、

古ロシア年代記に観察されるものと並行する傾向が見られることが分かった。

現在は、古教会スラブ語のもっとも中心的なテキストである福音書テキストと古ロシア語年代記の言語の比較対照へと議論を進め、4年間の研究計画の収束を目指している。

### 3. 現在までの達成度

#### ② おおむね順調に進展している。

(理由) 各種聖者伝、古教会スラブ語テキストにおける語順と指示代名詞の使用について基本的な調査・分析を終え、より包括的な記述を目指して計画を進めている。

### 4. 今後の研究の推進方策

古教会スラブ語のもっとも中心的なテキストである福音書テキストと古ロシア語年代記の言語の比較対照へと議論を進め、古教会スラブ語の古ロシア文章語への影響関係を明らかにするという4年間の研究計画の目標達成を目指す。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① 佐藤昭裕、「古ロシア語と古教会スラブ語における指示代名詞 $\text{сь}$ ,  $\text{онъ}$ ,  $\text{тъ}$ について」、『京都大学文学部研究紀要』50、81-131. 2011、査読なし
- ② Sato, Akihiro. “Stil’ povestvovanija drevne-russkoj letopisi «Povest’ vremennyh let» i jazyk Žitij Kirilla i Mefodija: Opyt sopostavitel’nogo issledovanija.” in *Comparative and Contrastive Studies in Slavic Languages and Literatures 2008: Japanese Contributions to the 14th International Congress of Slavists*. 1-40. 2008. 査読なし

[学会発表] (計3件)

- ① 佐藤昭裕、「古ロシア語と古教会スラブ語(OCS)の指示代名詞 $\text{сь}$ ,  $\text{онъ}$ ,  $\text{тъ}$ の使用について」日本ロシア文学会関西支部秋季研究発表会、2010年12月4日、京都産業大学
- ② Sato, Akihiro. “Struktura teksta Povesti vremennyh let i šachmatovskaja teorija ego formirovanija.” シャフマトフ記念国際会議、2008年10月22日、モスクワ、ロシア科学アカデミー・国立人文大学
- ③ Sato, Akihiro. “Stil’ povestvovanija drevne-russkoj letopisi «Povest’ vremennyh let» i jazyk Žitij Kirilla i Mefodija: Opyt sopostavitel’nogo issledovanija.” 第14回国際スラビスト会議、2008年9月10日、オフリド、ホテルメトロポール

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]